

NPO法人グローバルリーダーシップ・アソシエーション(GLEA)のメールマガジン第134号をお届けします。
ご意見・ご感想はglea@npo-glea.orgまで。

◆今号の内容

1. トピックス
2. 最新の活動情報
3. これからの活動情報
4. コラム 特別寄稿 太刀掛 俊之 大阪大学キャンパスライフ健康支援センター・教授

1. トピックス

◆ 交渉コンペの感想がオーストラリア国立大学のウェブページに掲載されました。
最新の活動情報をご覧ください。

2. 最新の活動情報

◆ 当法人のウェブページに次の情報を掲載しました。
<http://www.npo-glea.org/glea/?cat=8>

・交渉コンペで2位となった オーストラリアの大学連合チームの感想掲載について
「分断と格差とグローバルな課題に直面する現代においては、相互理解とお互いに有利となる解決法を獲得するために、交渉技術はあらゆるレベルで重要となります。」

・交渉コンペの審査結果の点数とニュースレター情報

3. これからの活動情報

- ・定例理事会および総会が6月に予定されています。
- ・会員の参加機会拡大のために、オンラインミーティングは実施したいと思います。

4. 今月のリーダーシップ情報 【コラム／column】

「米連邦議会議事堂の乱入事件とカルト的思考」

太刀掛 俊之 大阪大学キャンパスライフ健康支援センター・教授

アメリカではトランプ前大統領がSNS等を利用して大統領選の不正を訴え、その主張に呼応した支持者たちが連邦議会議事堂に乱入し、選挙の認証作業が一時的に停止する事態が発生しました。民主主義を率先する一国のリーダーが、直接的な指示はしなかったとはいえ、一部の国民

に対して暴徒を作り出す影響力を及ぼした事実には、グローバルリーダーシップ(GLP)科目を担当している立場としても驚かざるを得ませんでした。

私自身はGLP科目でカルト問題に関する心理学的な視点から、学生たちとリーダーシップのあり方について議論を行ってきました。集団の「熱狂」を支える行動の原理とは何なのか？また「熱狂」の先で到達するものは何なのか？などについて、健全な集団と不健全な集団の違いから理解を深めます。そして「熱狂」を支える行動の原理として、集団浅慮や二元論的思考の危うさや、「熱狂」によって到達する目的が、個人の自由と尊厳を侵害し、社会的な弊害をもたらすものになっていないか、ということ学びます。

昨今の新型コロナ禍による社会不安などにより、より強いリーダーシップ、よりわかりやすい説明を人々が求めているように感じます。そのようなときに、善か悪か、敵か味方か、正義か否か、といった二元論的思考はより魅力的に感じられることでしょう。SNSの利用によって自分自身の主張に沿った情報だけを手に入れ、時には陰謀論に加担して、自らの思考を強化することが容易な世界が生まれています。

このような状況の中、ドイツのメルケル首相は、Twitter社などの一民間企業がトランプ元大統領のアカウントを永久停止したことについては慎重な態度を表明しました。意見の自由は尊重されるものであり、自由に発言する場をどのように確保すべきなのかという問題提起がなされたことも事実です。私たちが社会をより良いものにしようとするとき、意見の自由を踏まえつつも、多種多様な情報を適切に取捨選択し、自らの思考を俯瞰することの重要性について、カルト的思考の特徴(二元論的思考の魅力とその落とし穴など)と対比させながら、学生たちとこれからも議論していきたいと考えています。

情報募集中

メールマガジン「グローバルリーダーシップ通信」で、
会員の皆様に発信されたい内容や活動等がございましたら、
毎月20日頃迄に事務局までご連絡下さいますようお願い致します。

本メールマガジンについて

配信先ご変更や配信ご不要の場合は、件名に「配信先変更」又は
「配信不要」と明記してglea@npo-glea.org迄ご連絡下さい。

=====
発行元:NPO法人グローバルリーダーシップ・アソシエーション

発行責任者:野村 美明

編集者:GLEA事務局 神谷 留奈

(TEL)070-6560-2633

(FAX)06-6853-3081

(E-mail)glea@npo-glea.org

ウェブサイト <http://www.npo-glea.org/glea/>

=====